

今日のみ言葉 228 「渴く者は来たれ」 2013. 6. 10

渴いている者は来なさい。

命の水が欲しい者は、値なしに自由に飲みなさい。（黙示録22の17 より）

渴くものは来れ。望む者は値なくして命の水を受けよ。（文語訳）

Come! Whoever is thirsty, let him come;
and whoever wishes, let him take the free gift of the water of life.

聖書の最後の部分にあらわれるのがこの言葉である。人間は、だれでも何らかの渴きを持っている。満たされない何かを心の奥深くに持った存在である。動物はただ食物があれば満足して安らかに眠っていることができるが、人間は精神的、霊的存在であるゆえに、食物が十分になくても飢えに苦しむが、食物が満たされていてもなお、魂の渴きは残り続ける。

家族や自分も健康で、収入もよい、家族も仲がよい—そのような状態がずっと続いているという人たちはあるかも知れない。しかし、この世は本質的に移り変わるものである。いずれ必ず家族のだれかが病気や事故、災害などに遭い、仕事がなくなったり、あるいは死、高齢化、住居移転などで離ればなれになって満たされない状況に直面する。

この世には、また、内面的なこと—自分の罪や他者の罪などのゆえに、思いがけない苦しみが降りかかってくることもある。かつては予想もしなかったことによって日々心身ともに疲弊するという状態に陥ることもある。どんなに表面的に幸せそうであっても、その奥にはどんな問題を抱えているか分からないのである。

自分の心、また家族の心や関わりある人たち、さらに日本や世界のどこを見ても、より深く見つめるときには、そこに渴きがある。満たされないゆえに、道を踏み外し、よくないとわかっているにもかかわらず罪の道に入り込むことがある。そしてそこからさらに新たな渴きが生じる。それゆえに、そうした人間の本質にかかわる渴きをいやすということが聖書の根本的なテーマとなっている。

このことは、すでにこのみ言葉にかかげた黙示録の時代より500年ほども昔の旧約聖書からすでに言われてきた。

「さあ、かわいている者はみな水にきたれ。金のない者もきたれ。来て買い求めて食べよ。あなたがたは来て、金を出さずに、ただでぶどう酒と乳とを買い求めよ。（イザヤ55の1）

私たちの魂の渴きをいやし、強め、再生させる力を持つものは人間ではなく、金や娯楽その他ではない。それは、はるかな古代から一貫して言われてきたように、ただ神とキリストのところに行くことによってである。主イエスも、「（心の重荷を持ち、満たされずに疲れ、渴いている人は）私のところに来なさい。そうすれば、魂に休みが与えられる。」と言われ、また「誰でも渴いている人は、私のところに来て飲みなさい。そうすれば、その人の内から生きた水が川となって流れ出るようになる。」（ヨハネ福音書7の37～38より）と約束された。

このように、ここにあげた黙示録の言葉は、聖書の最後に現れる強い呼びかけともなり、聖書の全体のメッセージをしめくくるように記されており、2500年ほども昔の時代から、今日に至るあらゆる時代の、あらゆる人への呼びかけとなっているのである。



私はこの花を秋田駒ヶ岳で初めて見ました。はっとするような清い美しさをたたえた花です。純白の花びらの中に黄色の中心部をもったサクラソウの仲間です。サクラソウの仲間は、外国のものはプリムラと言われ、よく知られている花で、多くの種類もあり、その園芸用のは花屋でたくさんいろいろな色のもも見られます。

しかし、日本の野草としてのサクラソウは、ピンク色で、野生が見られるところはごく少なくなっています。

このヒナザクラは高貴とも言える白です。花びらは5枚ですが、それぞれが深い切れ込みがあるので、10枚の花びらのように見えます。草丈は、10センチ内外の小さい野草です。これは、日本固有の植物で、学名も、*Primula nipponica* (プリムラ ニッポニカ) といい(*)、日本のプリムラ (サクラソウ) という意味です。

(*) *primus* (プリムス) はラテン語で、始め、真っ先、第一などを意味する言葉で、英語にも *prime* (主要な、最初の) という語として取り入れられています。春の始めに咲くので、プリムラという名があります。

この花は、日本でも、東北地方の八甲田山から新潟と山形県境に連なる豪雪地帯の朝日連峰や、福島県の吾妻連峰といった1500mを越えるような高山帯でしか見られないという植物です。

こうした太古の昔から存在していたであろう高山植物の美しさ—それは神の国の清さや美しさをそのまま反映しています。人間が存在するよりはるか昔から存在して、神のご意志のままに創造されたものであるからです。神の国からこの世に射してきた光のようです。

私たち人間はこうした純粋な清さを持っていないのですが、主イエスは 求めよ、そうすれば与えられる と言われたのを思い出します。求めることによって私たちもこうした天の国の清いものをわずかでもいただけると信じるものです。(文・写真ともT. YOSHIMURA)

